



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：令和2年12月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

2020-12 Vol.28

社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

「彼岸花と秋の訪れ」

夏が過ぎ花を咲かせる時期を知っているかのように毎年同じ時期に顔を出す彼岸花。そんな彼岸花と秋の実りを間近に控えた稲穂、夕陽に照らされる山々を撮影しました。向かって右後方の山は、唐津市と糸島市との県境に位置する「浮嶽（うきだけ）」です。別名「筑紫富士」とも呼ばれ、背振山系の最西端を成し、霊峰として知られています。山頂には浮嶽神社の上宮が鎮座し、古くから航海の目印ともされてきました。唐津市、糸島市にはまだまだ後世に残したい豊かな自然が残されています。ぜひ癒しを求めて遊びに来てください！



- 巻頭言…2
- REPORT…3
- 事業所 TOPICS…4～5
- 学園タイムス…6
- 学園 FOCUS…7
- 局長随想 リレーコラム…8
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…8

法人事務局 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	こども発達医療センター 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	オークス 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	かんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
在宅サポートセンターかんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	からつ医療福祉センター 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-在宅事業部 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-好学会 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
糸島子どもとおとなのクリニック 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	かんざき日の隈寮 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	佐賀向陽園 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	居宅介護支援センターわいわい 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252



「還暦」の佐賀整肢学園

社会福祉法人佐賀整肢学園
理事長

中尾 清一郎

今年2020年は、コロナが無ければ多くの日本人にとってオリンピックを無事に開催でき、緩やかに「先進国」としての看板を「老大国」にかけ替える助走に入った年として記憶されるはずであった。佐賀整肢学園も、ささやかに60周年式典を催し、立派な記念誌でも刊行していたことだろう。60年前の日本はまさに「60年安保闘争」の真ただ中、学生が国会に突入、全国でデモが頻発し、中高生も学生デモへある種の憧れを抱いていたのではないか。

私の祖父で佐賀整肢学園の創立者・中尾都昭（くにあき、本名 伊八）は明治27年（1894年）佐賀郡久保田村大字久富（現・佐賀市久保田町）の農家に生まれた。佐世保海兵団に入団し第1次世界大戦（青島攻撃）に参加、戦後地域新聞経営に携わり、昭和初期、経営難にあった佐賀新聞を再建し、佐賀県唯一の県紙としての地位を確立した。後半生は佐賀国体や佐賀医科大学（現・佐賀大学医学部）設立の募金委員長を務め、県観光連盟会長など公職も多かった。そのような中で肢体不自由児の入院施設のないことを嘆き、佐賀市金立の地に小さな施設を開設した。翌年には昭和天皇・皇后陛下の行幸啓を仰ぎ、これが明治人であった祖父の使命感に火をつけたと思われる。以後苦しい経営の中、理事長は私の父・清登が継承したが、父は昭和60年（1985年）12月、51歳の若さで急逝した。翌61年1月、父の社葬の直後、参列していた当時の学園幹部の皆さんからの懇請で、私が3代目理事長をお引き受けすることになった。福祉や医療の知識どころか本業の経営もままならない中、整肢学園を支えていただいたのは、少壮の原寛道先生や職員の皆さんで、厳しい労使関係の改善に果敢に取り組むとともに、法人経営の充実強化に努めていただいた。学園が40周年、50周年

を迎える中で施設が充実し、からつ医療福祉センターや、ついには福岡県糸島市にまで進出できたことに深い感慨を覚える。

施設が立派になり、職員数も増えて学園の経営不振期を知る者も少なくなっていた。60周年は人間でいえば「還暦」、古人は60歳までの長命に感謝し、赤ちゃん返りすることで精神の若返りを図った。今こそ整肢学園も、診療所のような小さな施設から始まった初心に戻り、私たちは何のために働いているのか、福祉の理想とは何かを青臭く考え直すべきではないか。

私は整肢学園創立の年に生を享けた。自らを省みる如くに、謙虚に学園の運営にあたっていきたい。

【60周年の記念広告(11/7 佐賀新聞に掲載)】

施設 表彰

佐賀さいこう表彰

去る9月19日、佐賀メディカルセンタービルにおいて、山口祥義佐賀県知事から江口施設長へ、令和2年度佐賀さいこう表彰（がん対策部門）の表彰状が授与されました。この賞は、佐賀県ががんによる死亡率が全国平均と比較して高い水準にある現状を踏まえて、がんの予防、早期発見、早期治療の推進、治療と仕事の両立をはじめとする患者やその家族への支援など、格別に尽力している企業、団体、個人を平成30年から表彰されているものです。

かんざき清流苑は、「様々な両立支援制度を備え、がんを患った従業員1人1人に合わせた両立支援プランを設計、施設内スタッフの配置転換を柔軟に行うなど、がん患者の治療と仕事の両立を支援する仕組み作りに尽力した」ということでこの度表彰を受けました。これまでの事業所での取り組み、職場環境を認めていただけたことを大変嬉しく思うと共に、身が引き締まる思いです。

表彰式の前には佐賀大学附属病院副院長の木村晋也先生から「がんと免疫力のお話し」のテーマで講演を頂きました。2人に1人が「がんにかかる時代」、やはり免疫力を高めることが必要であるとの講演がありました。



がんと診断されても職場に復帰し、一緒に働く姿は、他の職員にとっても励みになります。高齢者介護の現場は人材不足が叫ばれる中ですが、今後も毎年の健診に加えて腫瘍マーカーの検査の実施等で、がんの早期発見等に努め、治療と仕事の両立を図り、職員一人一人が安心して働ける職場環境の整備に努めていかなければならないと強く感じました。

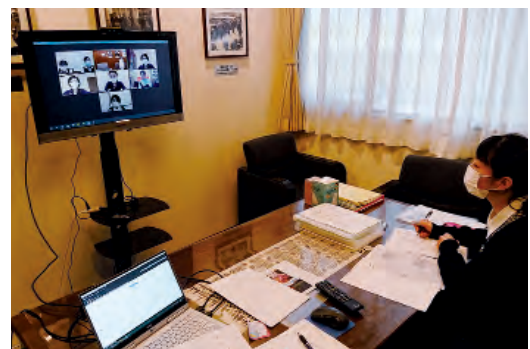
(在宅サポートセンターかんざき清流苑 城島 悦美)

感染 対策

オンライン会議の実施

長く続くコロナ禍の影響から、様々な研修やセミナー等がオンラインで開催されています。これまで佐賀整肢学園が法人内で横断的に実施する会議については、各事業所から関係者が一堂に会する形態をとっていました。しかしながら、感染拡大防止、三密回避等の観点から、これらの会議も可能な範囲でオンラインに移行しています。

毎年度末および年度初めに実施される「会計担当者会議」では、法人内の会計担当者が決算における調整事項、法人税・消費税の算定方法の確認等を行っていますが、会場になる「こども発達医療センター」での感染拡大のリスクや、会議室に大勢集まる三密の状況を鑑み、5月にオンラインで実施しました。この会議を皮切りに、定期的で開催される「学園タイムス編集会議」もオンラインでの開催に移行しました（今号もオンライン会議で作成しています）。また、各施設長、事務長、経営企画職によって組織されている「経営企画会議」についても、毎月第1月曜日に会場を分散しオンラインで実施。その他にも、各事業所間での個別の事項や行事についても可能な範囲でオンライン化を進めており、人が集まる機会を極力減らすよう努めています。



会議のオンライン化は移動時間を省くことができ、時間を効率的にできる反面、直接顔を合わせないことから、表情や雰囲気を読み取ることが難しいように感じます。また、会議前後での雑談がコミュニケーションの場となり、プライベートだけでなく仕事をするうえでも有益な情報を得ることができていたことも事実です。「オンラインでつながる」ことは、必要最低限のつながりを得ることができそうですが、本当のコミュニケーションが失われてしまい、法人内事業所それぞれが分散してしまわないか不安に思うところがあります。このような状況だからこそ、より一層、各事業所間の横のつながりを意識し、情報共有を図っていくことが重要だと感じます。

(法人事務局 田中 邦典)



8月20日に、夏季体験学習のこども理科実験コーナーを行いました。前日から、利用者の皆さんは「明日なにをするの?」「実験楽しみだね」と、とても楽しみにされていました。当日、白衣とカツラで変装した職員が登場すると、会場は一気に盛り上がりました。職員による説明の後、グループに分かれて行動し、不思議な触感の片栗粉の「ダイラタンシー」、ダンボールで的を打つ「ダンボール大砲」、ドライアイスの冷気を体験できる「ひえひえの館」、コーラが噴出す「びっくり炭酸水」の4つの実験コーナーを周りました。「炭酸水が空に噴出してびっくりした」「ダンボール大砲で的を倒してうれしかった」と、笑顔で話されていました。最後は、全員で氷と塩を使った「ジップロックアイス」を作りました。製作途中、冷えたジップロックの袋に「冷たい!」と驚かれながらも、アイス固めるために袋を一生懸命振られていました。アイスが完成すると、利用者の皆さんは美味しそうに食べられていました。

利用者の皆さんと夏休み最後に楽しい思い出をつくることができました。

(第1療育課 生活支援員 坂井 佑衣)



神埼市長敬老訪問

9月

かんざき清流苑



9月14日、神埼市の松本茂幸市長が長寿のお祝いで来訪されました。神埼市では、長寿の祝福及び社会貢献された労をねぎらうことを目的として、市内の100歳以上の高齢者に長寿祝金が贈呈されています。当施設では有料老人ホームにご入居されている田中敏男様(103歳)、寺崎サヲ様(101歳)のお二人が市長よりお祝いを受けられ、大変喜ばれておられました。なお、田中様は神埼市内男性の最高齢者でもあります。お二人に長寿の秘訣をお聞きしたところ、田中様は「病気をしないこと」、寺崎様は「なんでもよく食べること」と笑顔で答えてくださり、周りにいた職員まで自然と笑顔になる心あたたまる穏やかなひと時でした。

今年は新型コロナウイルスの影響により、何かと慌ただしい日々が続いていますが、そうした中でこのようなお祝いの場に立ち合わせていただけたことはとてもありがたいことでした。今後とも、当施設でお元気に過ごしていただけるよう、より質の高いサービス提供はもちろん、感染防止対策を徹底し、安心安全な環境で生活していただけるように努めなければならないと改めて思いました。

(在宅サービス課 生活相談員 井上 皓貴)

リモート敬老式典

9月

佐賀向陽園・わいわい

9月21日にリモートにて令和2年度敬老式典を行いました。本来ならば、ご家族様・親しき友人の方々をお招きし、一緒にお祝いをする大事な敬老式典です。今年はコロナ禍の中、実施できるかどうかと悩みに悩みました。しかし「後悔先に立たず、利用者の方のお祝いは一生に一度しかない」と思い、利用者の方と職員のみではありますが、リモートで初めての敬老式典を行いました。多くの課題はありましたが、無事に式典が終了し、利用者の方の笑顔が見られたので、実施できて本当に良かったです。これからも健康に、そして毎日楽しく暮らしていただけるよう、支援していきたいと思っております。



(在宅サービス課 生活相談員 宮本 稔也)

事業所 TOPICS

(8月～10月)

体育大会

10月

からつ医療福祉センター

児童発達支援事業所アルトンあかり(重症児)で、体育大会を行いました。例年、児童発達支援センターまつばっくり教室と合同で実施するのですが、コロナ対策の為、アルトンあかり単独での初の試みでした。出場選手6名、「ゆっくり慌てずみんなが主役」をスローガンにしました。利用者の皆さんは、準備から参加し総練習を重ねて本番を迎えました。しかし、いざ始まると、その雰囲気緊張が爆発し、室内は泣き声でいっぱいになりました。先行きを心配しましたが、次第に笑顔が戻り競技は順調に進みました。玉入れの玉をキャンディ型にしたあめ玉入れは、少しの力でも掴むことができ、児童の皆さんは達成感を感じているようでした。鼓笛隊では、蝶ネクタイ手首にポンポン、頭にはそれぞれが選んだキャラクターのお面を着け、太鼓や鈴、タ



ンバリンをドラえもん歌に合わせて高らかに響かせました。障害物競争では、介助歩行、歩行器やバギーなどを使用し、ゴールのおやつを目指しました。拍手喝采を浴び、ゴールテープをきる姿に感動しました。

コロナ対策として、保護者の方の観覧はご遠慮いただきましたが、笑顔の写真と手形足形で飾られたバック絵にエールをもらい、賑やかに記憶に残る体育大会ができました。

今後も、利用者の皆さんが楽しみながら成長できる行事を企画していきたいと思えます。(児発事業課 保育士 城 紀子)

地域美化活動・焼肉会

10月

かんざき日の隈寮



かんざき日の隈寮では、施設内で生活されている利用者の方に季節を感じていただくことを目的とし、施設周辺のゴミ拾いなどの地域美化活動を行っており、その後に焼き肉会を開催しています。毎年恒例の焼肉会ですが、例年とは違い、今年は外に一方に椅子を並べ、感染症防止対策等工夫を行いました。当日は風もなく、過ごしやすい気候に恵まれ、背振山を望んでの最高の焼肉日和となりました。

利用者の皆さんは「朝の地域美化活動を一生懸命に頑張った後だったのでお腹も空いて美味しく食べられました」、

「青空の下で食べる食事は気持ちがイイです」、「お肉やおにぎり、焼きそばも大変美味しく、楽しいランチタイムになりました」と話され、秋の到来を感じながら野外の食事を楽しまれたようです。

(入所サービス課 生活支援員 北島 照政)



秋祭り

10月

オークス

オークスでは、10月29日に秋祭りを行いました。例年なら、御家族の方や地域の方と一緒に楽しめるお祭りで、利用者の皆さんが楽しみにされている行事のひとつですが、今年は新型コロナウイルス感染防止対策のため、屋内での開催となりました。

当日は、会場をハロウィンの装飾で飾り付けし、職員全員がお揃いのハロウィンマスクで支援にあたり、一緒にお祭り気分を味わいました。利用者の方からも「みんな一緒に可愛い!」と好評でした。お楽しみ抽選会が始まると、歓声が上がったり落胆の声が聞こえたりと、くじを引くごとに一喜一憂され楽しんでいました。豪華な景品が当たった方は「嬉しい。まさか自分が当たるなんて。」と嬉しそうにされていました。また、利用者の皆さんに少しでも喜んで欲しいと思い、以前から食べたいと言う意見が多かったピザを初めて注文し食べてもらいました。「久しぶりに食べたよ。美味しかった。」と笑顔で言っていた時には、立案して良かったと心から思いました。



他にも焼きそばを鉄板で焼く実演では、すぐそばでジュージュと焼ける音がし、職員が手際よく焼く姿を見ることができました。綿菓子機からは甘く懐かしい匂いが漂い、お祭りの雰囲気を感じ取ってもらえたのではないかと思います。

まだまだ新型コロナウイルスの影響で様々な場面において感染対策が必要ですが、利用者の方と一緒に楽しい時間を過ごせるよう日々努めていきたいと思えます。

(入所サービス課 生活支援員 円城寺 裕美、佐藤 真理奈)

タイムス特集

「さが彩発見」と題して、不定期に銘菓や伝統行事、特産品など、隠れた佐賀の魅力を取り上げていきます。

さが彩発見

File 7: 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ

「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」は、毎年10月末から11月頭の5日間にわたり開催される熱気球のイベントです。バルーンの世界大会が開催されると同時に、大人から子どもまで楽しめるイベントもたくさん企画されています。毎年およそ100万人が訪れる佐賀最大級のイベントを、今回は大紹介いたします！



バルーンフェスタって？



期間中は大空を飛ぶバルーンがあちこちで見られます！

佐賀の嘉瀬川河川敷で毎年秋に行われる、熱気球のイベントです。世界各地から熱気球のチームが集まり、競技を繰り広げます。熱気球の大会の他にも、子ども向けの体験イベントや、美しいライトアップなど、たくさんの催事も行われ、バルーン尽くしの数日間です。

なぜ佐賀で開催されているの？

最初は「バルーンフェスタ in 九州」として、福岡県で開催されたバルーンフェスタですが、なぜ佐賀で毎年開催されることになったのでしょうか？それは佐賀の地形が大きく関係しています。北には山、南には海があり、伸びやかに広がる佐賀平野。高層ビルや障害物が少なく、平坦な地形の佐賀県は、気流が安定しており、バルーン競技には最高の条件が揃っているそうです。また、地元住民のバルーンフェスタへの理解が深く、観客が多いことも魅力のひとつだと言われています。



田んぼにバルーンが降りてくることも！

みどころ・おすすめ

*1



早朝の一斉離陸

河川敷に並んだカラフルなバルーンが一斉に膨らみ、まばゆい朝日を浴びながら佐賀の大空へと飛び立つ様はとても華やかで、特に晴れた日はとても美しい光景が広がります。



バルーンファンタジア

かわいい動物やキャラクターの形をしたカラフルなバルーンが勢揃い！気候が良ければ、巨大なバルーンを間近で見ることができますよ。

*2



キッズ・デー

子供たちを対象にしたキッズデーでは、バルーンを触ったり、球皮の中に入るなど、貴重な体験をしながらバルーンについて学べるまたとないチャンスです♪



ラ・モンゴルフィエ・ノクチューン

暗闇の中、河川敷一面に広がったバルーンが、バーナーの赤い炎でライトアップされます。音楽に合わせてバーナーで照らされる様々な色のバルーン。とても幻想的で、あたたかさを感じる光景です。

この期間だけ出現する幻の駅!?

バルーンフェスタ開催期間限定で、会場近くに臨時駅がオープンするのは御存知ですか？その名も【バルーンさが駅】！バルーンフェスタの期間以外では乗り降りできない、とってもレアな駅なんです。毎年、バルーンフェスタにはたくさんの方が来場されていて、渋滞はもちろん、駐車場を探すのもなかなか大変です。公共交通機関を利用されるのもオススメです。

いつでもバルーンフェスタ気分！バルーンミュージアム

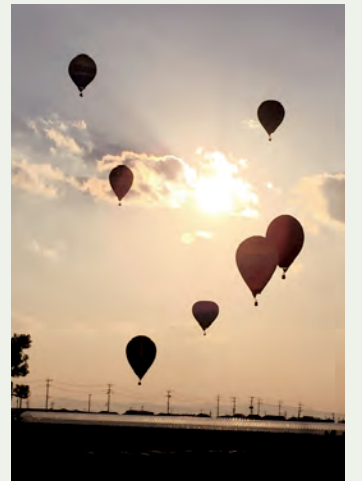
バルーンフェスタは期間限定ですが、佐賀市街地にあるバルーンミュージアムでは、一年中バルーンに触れて楽しむ事ができます。バルーンの操縦の疑似体験などもできますよ♪



*4

2020年のバルーンフェスタは、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら中止となってしまいました。来年はまた佐賀の大空に飛ぶバルーンが見られる事を祈って、感染対策につとめたいと思います。佐賀にはバルーン以外にも美味しい食べ物、美肌の名湯などがたくさんあります。またバルーンフェスタが開催される時には、ぜひ佐賀にお越し下さい。

(編集委員一同)



来年こそは、こんな風に美しい光景が見られることを祈っています。

学園 FOCUS



佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、かんざき清流苑の介護福祉士の木屋英明さんに、趣味のサッカー観戦とサガン鳥栖愛について熱く語っていただきました。

Q いつ頃からどのようなきっかけで観戦に行くようになったのですか？ご自身がサッカーをされていたとか？

A いいえ、私はサッカーの経験はありません。観る専門ですね！初めて観戦したのは、2009年最終節のサガン鳥栖 vs セレッソ大阪戦でした。0-1でサガン鳥栖が負けていたのですが、終了間際の89分から2点を取って劇的な逆転勝ちした試合を観て感動し、スタジアムに足を運ぶようになりました。2011年からは毎年ユニフォームを買って寝室に飾るぐらい、今ではサガン鳥栖に夢中になっています。



Q サガン鳥栖の魅力、サッカー観戦の魅力は何ですか？

A TVでは感じることでできない選手たちの迫力ですね。特に、鳥栖のスタジアムは球技専用のスタジアムなので陸上トラックがない分観客とピッチとの距離が手を伸ばせば届いてしまいそうぐらいとても近いんです。だから選手たちが喜んだり、悔しがっている表情が見ることができたり、選手の声や一つ一つのプレーの迫力を間近で感じることができます。選手が投げしてくれたサインボールをゲットしたこともあるんですよ！！またホームでの試合は、サガン鳥栖のサポーターが多いため、みんなと一緒に応援し喜びや悔しさを分かち合えることで会場に一体感があります。サガン鳥栖のサポーターは小さい子どもさん連れから年配のご夫婦まで年齢層もとても広いんです。それだけみんなで応援したいと思わせるような雰囲気チームスタジアムにあるんでしょうね。私もよく奥さんと一緒に観戦しています。共通の楽しみですね。

Q 県外での試合にもよく行かれていとお聞きしましたが、どのくらいの頻度でサッカー観戦に行かれているのですか？また、印象に残っている試合などあり



きや ひであき
木屋 英明 さん

かんざき清流苑 入所課
介護福祉士

ますか？

A ホームでの試合は全て観に行っています。アウェーの試合を観に行けるのは、年に一回くらいなんです。印象に残っている試合は、2018年に神戸のスタジアムで行われたヴィッセル神戸 vs サガン鳥栖戦ですね。当時サガン鳥栖に所属していたトーレスとヴィッセル神戸に所属していたイニエスタの元スペイン代表の2選手が出場する試合を観戦できたことはとてもいい思い出になりました。

Q サッカー観戦に行ったことがない方も多いと思いますので、サッカー観戦をするときの心構えなどありましたら、教えてください。

A まずはスタジアムグルメやスタジアム周囲でのイベント等を楽しみに来てもいいと思います。スタジアムグルメは美味しいものがたくさんありますよ。そしてルールがいまいち解らなくても、ゴール裏の席ではサポーターの人が応援の仕方を教えてくれるので一緒に盛り上げたりします。グッズを持っていなくても、チームカラーが青系なので青いTシャツを着ていくだけでもいいですよ。

Q 最後に、サポーターとしての目標をお願いします！

A サガン鳥栖のJ1優勝を目指し、これからも夫婦で楽しく応援していけたらいいと思っています。



NEXT…オックスのあの人に FOCUS !!

局長随想 冬の風物詩、今いずこ

今や遙か昔の冬の風物詩となったものに、庭のたき火がある。『かきねのかきねのまがりかど たきびだたきびだおちばたき あたろうかあたろうよ きたかせ びいふうふいている』の歌詞で有名な童謡「たき火」は、巽(たつみ)聖歌(せいかに)の作詞、渡辺茂作曲で昭和16年にNHKのラジオ番組で発表された。当時、作詞家の巽は、樹齢300年を越える大きなケヤキが6本もある「けやき屋敷」と呼ばれる家の近辺に住んでいて、その家の住人がケヤキの枯れ葉を焚き火にする光景をよく見ていたので、その光景をもとに、この歌を作詞したとのことである。同年の12月には太平洋戦争が勃発したため、ラジオ放送が開始されると、当時の世相を反映して、軍当局から「焚き火は敵機の攻撃目標になる」とか「落ち葉は風呂を炊く貴重な資源だからもったいない」との批判が寄せられたようだ。戦後になってからは、小学校の音楽の教科書にも掲載されるようになったが、今度は消防庁から「街角の焚き火は危険」とか「防火教育に差し支えないように考えてほしい」などの批判が寄せられたため、教科書に掲載される際には挿絵に焚き火と人物だけでなく、火消し用の水が入ったバケツも描かれるようになったとのこと。このような経緯をたどった「たき火」の歌であるが、焚き火に関する規制は、時代は変わってさらに厳しくなった。焚き火を禁止したり規制したりする法律として、自然公園法や都市公園法、廃棄物処理法、消防法などが制定され、各自治体による条例でも規制されているのが実情だ。焚き火は冬の季語であり、晩秋から冬にかけての風物詩であったが、世相の変化に伴って禁止・規制され、いまや童謡の世界でしか見ることができなくなっている。

「しもやけお手々」を焚き火で温めていた時代は、遙かな昔のこととなり、一抹の寂しさを感じるのには重ねた歳のせいばかりではないと思うがどうであろう。

(法人事務局長 寺崎 敏光)

Relay Column



佐賀整肢学園・オークス
総務課 庶務会計係
主任

なかはら けんた
中原 健太

考えれば考えるほど、悩めば悩むほど、深みにはまってしまう。皆さんも経験があるのではないのでしょうか。考えごとって、答えを出せるときより、出せないときの方が多い気がします。そんなときは、自分以外の方の意見を参考にしたり、本やネットで何か考えにつながるヒントは無いかと探すこともあると思います。私も、考えごとをよくしてしまうタイプです。

ある日、何かヒントになる記事はないかと、ネットを検索していたら、この記事を見つけました。漫画「天才バカボン」のキャラクター、バカボンのパパの言葉「これでいいのだ」についての解説内容でした。「これでいいのだ」という言葉を、知っている方も多くいらっしゃると思います。記事によると、この言葉は、「これでいいや」と投げやりなものではなく、今この現状を否定せず、ありのままを前向きに肯定し、受け入れるというものでした。考えごとをしていると大半が、自分の考えに対して否定から入ってしまいがちです。しかし否定から入らず、肯定してみるのも一つだと知りました。やってみたいと思っていたらやってみれば良いし、今はやめておこうと思っていたら、立ち止まれば良い。前向きに肯定することで、思い込みや、現状そのものが見えてくる気がします。それ以来、私は考えごとのたびに、この言葉に頼っています。

自分の背中を押してくれる言葉は、それぞれだと思います。背中を押してくれる言葉をお持ちの方は、その言葉を大切に。まだお持ちでない方は、これからゆっくりと見つけていただければと思います。と、ここまで書き、今私はリレーコラムの題材がこの内容で良かったかと、考えてしまいました。ということで、「これでいいのだ」と思うこととします。

NEXT…からつ医療福祉センター好学舎のあの人にパトントン!!

令和2年8月～令和2年10月

協力ボランティア

【こども】 整肢学園友の会様 親和会様

【清流苑】 ビハーラ神埼様

【日の隈】 藤間静浄様 (日舞クラブ) 高口美奈子様 (フラワーアレンジメントクラブ)

施設見学来訪

【こども】 医療福祉センター聖ヨゼフ園3名様 西九州大学心理カウンセリング学科47名様(オンライン)

【からつ・好・好】 (か) 唐津市障がい者支援課4名様 唐津特別支援学校51名様 伊万里特別支援学校5名様 玉島小学校1名様 鏡山小学校1名様 黒川小学校2名様 佐志小学校1名様 唐房保育園1名様 (好) 佐賀大学教職大学院3名様

実習生受入

【オークス】 西九州大学短期大学部地域生活支援学科2名 佐賀女子短期大学地域みらい学科6名

【からつ・好・好】 (か) 中村学園大学短期大学部幼児保育学科2名 西九州大学看護学科16名

【日の隈】 西九州大学社会福祉学科4名

見どころ

寒くなりましたね。皆さん、体調お変わりないですか？今年、佐賀整肢学園は60周年を迎え、その節目に携われること、とても嬉しく思います。現在もコロナ渦が続いている中ではありますが、この法人誌を見られ、少しでも癒しを届けられたら幸いです。

